

ネットワーク活用での表現力の育成

- いろいろな人との交流を通して相手にわかりやすく伝えよう -

宮崎市立池内小学校 4年担任 水野宗市

ホームページ：<http://www.miyazaki-c.ed.jp/miyazaki-ikeuchi-e/h13/4-2/4-2top.html>

キーワード 表現力、ネットワーク、テレビ会議、インターネット、ホームページ

1. はじめに

インターネット等のネットワークを活用した学習のキーワードの一つに「交流」があげられる。交流のよさとして、情報の収集やいろいろな考えにふれたりできること、相手に伝えるために自分の考えをまとめ・整理・発信していくことなどがあげられる。学習の中で積極的に交流を行うことにより、児童は主体的に学び、考え、他者の意見を聞きつつ自分の意見を論理的に組み立て、積極的に表現・主張できるようになり、「生きる力」につながると考える。

本実践では、情報通信機器を用いたネットワークを活用し様々な人々との交流の場（「同学年との交流」「異学年との交流」「大学との交流」「関係機関との交流」）を設定し、様々な手段を用いて、日常的に「交流相手に自分の考えをわかりやすく伝える」という活動を行うことにより、児童の表現力の向上を目指す。

2. 実践の概要

(1) 向上を目指す表現力と表現の場

- a) 文字というメディアによる表現（書き言葉）
- b) 音声というメディアによる表現（話し言葉）
- c) 身振り、表情、動作など身体をメディアとする表現
- d) 図表、イラストなど画像をメディアとする表現

これらの表現を次の4つの手段を通して育成していく。

- 「ホームページの活用」・・・ a), d) 「交流掲示板の活用」・・・ a), d)
- 「テレビ会議システムの活用」・・・ b), c) 「デジタルカメラ・ビデオの活用」・・・ b), c)

(2) 実施体制（交流の場の設定）

「同学年の児童との交流」（熊本県上村小学校、静岡県上島小学校、鹿児島県古仁屋小学校）

・・・植物の成長（桜島だいこん）や社会科等の学習における内容での交流を行う。同じ内容等共通な点が多いことが長所である。

「異学年児童（5年生）との交流」（富山県水橋中部小学校）

・・・植物の成長（本校「ケナフ」、相手校「お米」）について日常的に交流を行う。上学年の立場から、発表を違った視点で見てもらえることができる。

「大学生との交流」（宮崎大学）

・・・児童が知らないことなど、広い視野からの視点で見てもらえることができる。

「関係機関（博物館等）との交流」

・・・専門的な立場から、詳細な情報を教えていただいたり、助言してもらえる。

3. 具体的実践内容

(1) ホームページの活用

学校での毎日の様子を伝える「がんばり日記」と植物の成長の様子を伝える「ケナフ日記・だいこん日記」を通して表現活動を進めていった。交流している学校やお家の人に、どのように伝えたらよりわかるかという視点を与えて



児童が作成したホームページ（図1）

作成していった。

ホームページは、図1にあるように1枚の画像と文で表現しながら作成していった。必要に応じて作成したホームページを学級全体で文の内容や表現の仕方などを振り返る機会も持つようにした。その中で、よいところ、わかりにくいところなどをお互いに評価しあった。また、教師の方は児童の考えをまとめながら、今後の方針も交え助言を中心に支援していった。

また、どのような画像を使うことによって文の内容が相手に伝わるのかという点にも少しずつ気がついていき、どのような写真を撮るかということも考えながら取り組んでいった。

E スクエア・プロジェクト成果発表会

(2) テレビ会議システムの活用

テレビ会議システムでは、主に「話す」ことによる表現力の向上を目指すことにした。一人一人の児童が「表現する」活動ができるようにするため、group to groupでのテレビ会議を行うことにした。また、できるだけ多くの回数を経験できるように、1グループ4人とし、「週1回のテレビ会議」を実践することにした。

「週1回のテレビ会議」は、毎週金曜日の朝に15分～20分程度で行っていった。植物（ケナフ・桜島だいこん）の成長の様子を中心に、学習の内容や学校のことなど自由に情報交換や意見交換をしていった。当初は、葉っぱの数、大きさなどについて簡単に述べる程度であったが、相手校よりいろいろな質問を受けてその場で答えられないことなどの経験を経て、葉っぱの色や形、きている虫のことなど、数字等を使いながらより詳しく説明しようとする態度が変わっていった。また、回数を増やしていくにつれて、とっさの質問に対して対応する事ができたり、こちらから質問をできるようになってきた（図2）。「週1回テレビ会議」の実践では、事前にどんな内容を話すのか、どんなふうに話すのか、どんな工夫をするかなどを整理して、テレビ会議にのぞむような体制をとった。このことにより、児童は話す（表現する）前に内容を整理したり、どのように話す（表現する）とわかりやすいのかということを考えるようになった。



テレビ会議を行う児童（図2）

(3) 交流掲示板の活用

週1回のテレビ会議を行っている交流校（富山県水橋中部小学校）とは、電子掲示板を活用した交流も行っているが、文を中心とした表現力を養っていくことにした。掲示板に書き込む内容については、特に指定せずできるだけ子どもたちの考えで活用していくようにした。

書き込む内容の変容を見てみると、6月の段階では1行程度の一方的な質問しかかけなかったが、12月には質問するだけでなく、自分たちの様子なども取り入れながら自分の思いを文章で表現できるようになってきた。また、この掲示板では、画像を使えるように設定していただいたので、文章に画像もつけて表現するという方法も取り入れることができた。掲示板の学習においては、自分の書き込みに対する返事がのっていることがやはり意欲を持続する事につながった。自分の問いに答えてもらううれしさを感じ、相手の問いに対する必要性も感じていた。相手に対する思いやりやコミュニケーションの仕方についてもこの体験を生かしながら学習した。

(4) デジタルカメラ・ビデオの活用

身近に活用していたデジタルカメラにより「10秒自己紹介」を作成した。グループごとに、内容等を考え撮影をしながら作成した（図3）。普段、あまり時間を意識していない児童にとって、時間を区切って行うことは時間についての感覚を養う上でも有意義であった。また、自分のアピールポイントをできるだけ短く的確に伝えようと内容等も自分なりに考えながら取り組んだ。できあがった各自の「10秒自己紹介」をお互いに見て、よい点・悪い点を話し合い再度取り直しを行った。そして、最初に撮影したものが満足できるものでなかったため、再度取り直しをしようということになり自主的に活動に取り組んだ。



協力して撮影をする児童（図3）

4. まとめ

実践を進めていくうちに「明日のテレビ会議は何のことを話そうか」「数字を使うとわかりやすいね」「例えを使った文を取り入れよう」など、楽しみながら自主的に活動に取り組む姿が見られた。どんな文をかけば相手に伝わるのか、どのような写真を撮ればわかりやすいかなどを意識しながら日々活動をしていった。書くこと、話すことはこれからの子どもたちにとって大事な力だと思う。日常の指導やネットワークを活用した交流を計画的に組み合わせながら指導をおこなっていくことが大事だと実感した。

今後は、発達段階に応じてどのような表現力を培っていけばよいのかということも、教科等の学習とも関連させながら考えていくことが課題である。また、今後も教師自身が自らのネットワークを広げ、その中で様々なことを学び視野を広げていく必要がある。

参考文献：「新しい教育課程と学校づくり3『自ら学び自ら考える力の育成』」山極隆・無藤隆編 ぎょうせい
「情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術」林徳治 ぎょうせい